

木津川市地域公共交通総合連携協議会 会議結果要旨

会議名	第 64 回木津川市地域公共交通総合連携協議会		
日 時	令和 5 年 11 月 9 日 (木) 午前 10 時 00 分～午後 0 時 10 分	場 所	木津川市役所 会議室 4-3、4 - 4
出席者 (出席者…■) (欠席者…□)	委 員	<p>【学識経験者】</p> <p>■大庭 哲治委員 (副会長) ■井上 学委員</p> <p>【市民代表】</p> <p>■占部 禎佑委員 ■藤田 弘志委員 ■桑原 久和委員 ■津田 浩司委員 ■上月 俊行委員 ■木村 剛委員 □平田 克子委員 ■辰巳 潤委員 ■兔本 久和委員</p> <p>【事業者】</p> <p>■野口 明委員 ※代理：吉田 敦亘 (西日本旅客鉄道株式会社京滋支社 室長代理) ■山本 修委員 ※代理：鷺谷 毅 (近畿日本鉄道株式会社 新田辺駅副駅長) ■大西 秀樹委員 ■津田 秀夫委員 ■足立 高広委員 □大江 正泰委員 ■梅田 幹夫委員 □加藤 隆委員 ■今西 宏委員 ※代理：中谷 恵輔 (奈良交通労働組合 副執行委員長)</p> <p>【行政機関】</p> <p>■稲留 健一郎委員 ■今城 由貴委員 □松永 弘道委員 ■小寺 睦男委員 ■松田 直樹委員 ※代理：石田 真琴 (京都府木津警察署 交通総務係長) □谷口 雄一会長 □稲垣 勝彦委員 ■久保田 明委員 ※代理：柳川 雄司 (木津川市建設部理事)</p>	
	その他	<p>【オブザーバー】</p> <p>□酒井 大斗委員 □村上 進一委員 ※代理：西窪 由香理 (奈良市交通バリアフリー課 主任)</p>	
事務局	船岡政策監、茅早事務局長、西村事務局次長、吉田課長補佐、楠見主任		
傍聴者	3 人		
議 題	<p>1. 開会</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>①木津川市コミュニティバスの利用状況について【資料 1】</p> <p>②親子バス乗車体験について【資料 2】</p> <p>(2) 協議事項</p> <p>①奈良交通路線バスの再編について【資料 3】</p> <p>②木津川市地域公共交通計画の策定について【資料 4】</p>		

	<p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ①次回協議会の日程について ②その他 <p>3. 閉会</p>
<p>会議結果要旨</p>	<p>1. 開会 事務局より開会の宣言があった。</p> <p>2. 議事 議長から運営内規に基づき、会議録の署名委員として辰巳委員を指名した。</p> <p>(1) 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①木津川市コミュニティバスの利用状況について 資料1に基づき、事務局から報告があり、確認した。 ②親子バス乗車体験について 資料2に基づき、事務局から報告があり、確認した。 <p>(2) 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①奈良交通路線バスの再編について 資料3に基づき、奈良交通(株)から説明があり、原案の通り承認した。 ②木津川市地域公共交通計画の策定について 資料4に基づき、事務局から提案があり、原案の通り承認した。 <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ①次回協議会の日程について 後日通知することとした。 <p>3. 閉会</p>
<p>会議経過要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎議長 ○委員 →事務局 	<p>1. 開会 会議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①木津川市コミュニティバスの利用状況について 【配布資料】資料1 【主な意見・質疑等】 <p>◎秋になると行楽、観光シーズンとなり外出機会が増えると考えられるので、利用増につなげてもらいたい。市役所1階に設置しているモニターに1日フリー乗車券の案内があり、目立つところであってよいと思った。引き続き多くの方のご利用を期待したい。</p>

②親子バス乗車体験について

【配布資料】資料2

【主な意見・質疑等】

◎2 ページに英語で記載のものは外国の方向けのものか。

→外国の方だけではないが、それも対象として考えている。もちろん地域の方も参加できるイベントになっている。

◎英語での表記や情報提供も可能な範囲でこのタイミングで提示いただけると、利用者には便利だと思う。恭仁京方面にアクセスする際の、英語表記の充実度は不十分と思うところもあるので、ぜひご確認いただければと思う。

(2)協議事項

①奈良交通路線バスの再編について

【配布資料】資料3

【主な意見・質疑等】

○交通事業者が大変な思いで運行しているという状況は理解した。加茂線は、以前は、超満員の状況だったが、現在、南加茂台地区は高齢者が多いので、そこまでの利用は無い。今後は、高齢者の移動手段をどう確保するのかという観点で、6月に提案があったが山城病院・市役所・木津駅方面へのアクセスを確保することを検討いただきたい。今のルートだと空で走っている状態に近いので、通勤通学ラッシュ時は奈良駅、それ以外の時間帯は木津駅にということを考えていただければどうかと思う。今の加茂線の利用状況としては、昼間の利用が少ないと思うので、知恵を出し合っていきたい。

→加茂線の利用状況について、時間帯別の利用状況を見ると、通勤・通学で朝晩の利用があり、昼間は利用が少ない。時間帯によって行き先を変更することについては、対応可能なのかどうかは確認が必要である。ご意見は理解するが、南加茂台地域全体として本当にそれだけのニーズがあるのか、また、山城病院は総合病院になっておりどのくらいの頻度で利用があるのかという点も重要だと考えている。南加茂台地域の方々が本当に何を求めているのかを、今後地域に入って意見を伺っていきたい。

○現在は、大型バス車両で運行されているが、利用者が少ないならば小型バスで運行し経費圧縮することを検討してはどうか。住民の足をどう確保していくのか、行政としても知恵を出して行ってほしい。

→南加茂台地区については、前回協議会でもコミバスの新規路線の導入という提案もいただき、地域でも積極的な検討をしていただいている。公共交通に対する意識が高い状況も事務局としては把握している。地域の方々との意見交換を進めていきたい。

○路線の再編、効率化、車両の小型化については、当然、廃止の提案をする前に検討している。しかし、収支均衡となる再編策という事は難しかった。また、バス運行にかかる経費のほとんどが人件費で占めているため、大型の車両を小型にして、費用が落ちるというものではない。燃料費が若干下がるくらいである。また、小型のバスでは、通勤通学時の利用ピーク時には対応できず、車両が大きい方が効率的なケースもあるくらいである。小型化によりコストが落ちることはほとんどないのご理解いただきたい。

◎知恵を出し合うという意見には大賛成である。一方で、経路を考えるのも1つのアイデアであると思うが、車両、人件費、ドライバー不足など様々な問題が影響しており、そのあたりを考慮しながら、地域での効率化・最適化を図っていくのが大事になってくるので、引き続き、知恵を出し合うということをお願いしたい。

○今回、奈良交通路線バスの再編というのが協議事項となっているが、具体的に何を協議するのかを教えてください。

→奈良交通から運輸局に対して路線廃止の届け出が必要になるが、協議会で廃止等について同意を得ているか否かで手続きの方法が変わってくるので、協議事項として挙げさせていただいている。

◎路線の廃止に関して、協議をするのか、今回の再編には、廃止、休止、便数減便があるが、廃止について協議をする必要があるということでもいいのか。

→路線廃止を含む再編について協議を頂きたい。

○加茂線については、継続という理解でよいか。

→奈良交通からは令和3年度に相談いただき、国・府の補助が得られるのか相談してきたが、今の段階では、府の支援は得られないという回答を得ており、国からの単独補助が受けられるのかという点について今後協議はするが、国の補助を得たからといって赤字のすべてが補填され、収支均衡になるわけではないので、市の負担が一定必要となる。このため、今後路線バスの運行について、市が負担していくのかの検討が必要となる。

○万が一、廃止ということになった場合、行政として住民の足をどのように考えているのか。何とか支援して継続するというのが行政としての姿勢ではないかと思う。

→市として守りたいという気持ちはある。一方、加茂線を現在のベースで運行維持し、収支均衡を図るためには、年間2,900万円を行政として負担し続ける必要がある。毎年この負担額を行政単独で支出し続けて維持することは、難しいと考えていただいてよい。今まで奈良交通の路線バスに対して補助を行っていないという大前提があり、そこを行政だけで補助するというのは無理な状況になっている。今後どうしていくのかは地域に入って話し合っていくが、この機会に地域の方々にも、路線バスを含めた公共交通があることが当然ではなく、利用しなければなくなっていく可能性があるということをご理解いただいて、話し合っていきたいと考えている。

○住民との話し合いはもっと早い段階で進めていくべき。南加茂台地区だけではなく、加茂地域全体の問題として、地域に対して早く提案していくべき。

◎決して、市として南加茂台地区を始め加茂地域を切り捨てるわけではない。とはいえ、バス路線の維持は非常に難しい問題であり、利用者にコンスタントに乗っていただくという状況を作らないと路線の維持は難しいし、あるいは、サービス水準を下げた我慢して利用していただく、いずれかしかない。現状は両方ともに難しいので、廃止の提案があった。

いずれにしても、乗っていただくか我慢するしかないので、知恵を出し合って、乗っていただくという方向を目指して、地域の方々、観光客の方々に

利用してもらって支えていかなければならない。言うのは簡単だが、実行することはなかなか大変なことである。

○現状が加茂駅と奈良駅しか接続しておらず、目的がないのに利用をせよと言っても、高齢化が進んでおり、乗る確率は低いと思う。

◎目的地が変わってニーズがあれば、検討の余地はあると思うので、前回も申し上げたが、地域の方々がどういう利用意向があるのか、どこに行きたいのか、どういうところにバリアがあるのかをぜひ把握していただきたい。

○路線再編の実施については、来年4月1日としていただきたい。もともと2年前に協議の申し入れをさせていただき、これまで奈良交通としてもできる努力を行ってきたが、それでもこれだけの赤字を毎年抱えている。令和4年度は補助金を受け、人件費カットを行い、車両代替えを先送りしても、まだ3億円近い赤字を抱えている。さらに、これから運転手を確保するために賃金を上げる必要があるため、廃止を引き延ばす事は非常に難しい。

◎今回影響を受ける可能性のある城山台、南加茂台、梅美台と南加茂台の間の地域の方々など、住民の方々からのご意見は事務局に届いているか。

→再編の資料は、今回、協議会で初めてお示しするので、まだ他の地域のご意見は聞けていないのが現状である。

○廃止路線について影響を受ける乗降人員が記載されており、通勤・通学のために利用している方がいると思うが、この方々はどうすればよいのか。

→廃止になってどう確保するのかについては、今後の検討課題である。今後、地域と話し合っていきたい。

◎可能であれば、どのバス停からどのバス停へ、どの時間帯の利用があるのかといった情報をあわせて提供いただいた方が、通勤や通学に大きな影響がある・ないといった議論につながれると思う。

○これまでの議論を聞かせてもらっていたが、この問題は、どこまで行っても平行線だと思う。総論賛成、各論反対となる。市の公共交通に対する負担額は年々増えている中、市の財政状況も鑑みて検討する必要がある。この検討については、小委員会を作って議論を進める方がスムーズに行くように思う。加茂地域や南加茂台地区については、この会議でも何度も話が出ているが、感情的にならず、冷静になって判断するということからスタートすべきではないか。

→先ほど発言のあった小委員会というのが、地元との話し合いの場になると思う。路線廃止に対して、どう対応していくのかを、地元との協議を経て決めていきたいと思う。

○山城町に住んでいるが、山城方面からのバスは木津地域に接続している。一方、かもバスは加茂駅にのみ接続し、木津地域には直接結ばれていない。かもバスを木津まで延ばし接続させる選択肢もあると思うのだが、どうか。

→市としては、各地域の駅を中心としたまちづくりというのが基本的な考え方であり、加茂地域であれば、加茂駅に接続し、JR加茂駅から鉄道が接続するので、バス・鉄道を組み合わせての移動をお願いしている。

- 考え方は基本的には確かにそうだと思う。山城線は木津駅まで行っているというのが現実としてあるので、考え方を方向転換し、かもバスを木津までつなげれば、木津川市が一体になると思う。検討をいただきたい。
- 3つの町が合併したのだから、木津川市全体として考えるべきである。4月廃止ということなので、年内に一度は地域と議論すべき。早急に行政と住民と意見交換を行い、落としどころを見つけていくべき。ここで議論しても仕方がない。
- ◎地域で議論することが重要だと思う。この議題は協議事項になっているので、再編をやむを得ずだが認めるかどうかということになるが。
- ここで廃止を決められると次の答えが出なくなる。
- これは奈良交通が自社のバス路線をこう変えたいということに対して議決することなので、問題がないのではないか。なぜ延期しなければならないのか。
- 来年4月がタイムリミットと言っているので、地域との話し合いは早く進めていくべきだと思う。
- ◎奈良交通は来年4月1日に再編をしたい。今日議決をしないと間に合わないという認識でよいか。
- 本日議決をいただいた場合、廃止の1カ月前に届け出ればよい。仮に議決を頂けなくても、6カ月前の届出で廃止することができるので、ここに付議をさせて頂かなくても良かったが、昔から運行している路線なので、2年前に協議を申し入れ、運行する努力を続けてきた。その上で今回、再編を提示させていただいた。当社としては補助をいただいて収支均衡がとねれば運行をしていきたい。スケジュールについては、今すぐでないといけないというわけでは無く、4月1日実施の1ヶ月前の議決があればよい。それが難しければ、しかるべき手続きを取らせていただくという認識である。
- 奈良交通からは令和3年12月24日に申し出が出ている。こんな大事なことを2年も放っていて、行政は何をしていたのかと思う。
- ◎放置していたわけではないと思うので、経緯があれば事務局より説明願いたい。
- 令和3年12月に奈良交通より協議を頂いて、府に対して補助を受けられないか協議を申し入れている。またR4、5年度に新型コロナ臨時交付金活用して、運行維持のために奈良交通には500万円を交付しているし、昨年度は市内バス無料Dayを行い利用促進に努めるなどして、今に至っている。令和3年から継続して協議してきているが、今回の提案に至っているというのが経緯である。
- 行政側のコメントを聞いていると、廃止というのが前提と受け取れる。それに対して、行政として、これから住民の足をどう確保していくのかという考え方、もしあるとしたらこういう方法があるというのを提示していただきながら、各地域の住民と話し合う場を持ってもらいたい。
- 早急に地域の方々と話し合いの場を持ちたい。行政としていきなり代替案を出すというよりは、これまでの利用状況のままでは維持できないということをご理解いただき、地域の方々がどういったことができるかということも踏まえて、知恵を出し合って、決めていきたい。

○この議決は奈良交通の路線の是非を問うものであり、乗らないものは消えていくということは、私が委員就任した時から繰り返しお伝えしてきた。今回は赤字額の問題だが、いずれ運転手不足の問題でさらに減便されることが予想される。既に京阪バスや阪急バスなどの電鉄系のバス会社では、運転手がいなくて次々路線が廃止されている。廃止や減便については、今後、他の路線に波及する可能性もあるので、利用促進をしっかりとやっていくということをこの会議で決めていかななくてはならない。前日も申し上げたが、自分の利益を追求していけば、社会全体が崩壊するので、自己利益のみを最大化していくのではなく、折り合いをつけて、社会全体の最適化を図っていかなくてはならない時代になった。

今回をきっかけとして、今回提案のなかった他の路線やきのつバスについてももしっかりご利用いただくことが大事である。JRについても、今の利用状況から見ると、減便や駅・区間の廃止という話が出てきてもおかしくない。現状は不便かもしれないが、受け入れていかなければ、枝葉（バスなどの二次交通）を育てようとして、幹（鉄道）が枯れてしまうことになるので、どうか折り合いをつけていただきたい。

廃止または減便後の交通手段についても、路線維持を全て行政に任せるのではなく、地域ではこういう努力をするので行政も支援するというようにしないと、今後ますます利用者は減る一方である。例えば今回の赤字額をどうやって埋めていくかを考えた際、南加茂台が1,500世帯なので、週に1回バスを往復利用すれば黒字化する。ただ、全員が週に1回利用することは難しいので、半分は地域で利用するから、半分は行政が支援してほしいとか、何かしら地域も頑張っていくという姿勢を見せなければ、他のコミュニティバスもいずれ同じことにならないか心配している。不便かもしれないが使っていく努力をしなければ、公共交通全体が消えていくと思わざるを得ない。

◎いろいろな意見があると思うが、この協議事項については、奈良交通が努力を重ねた上でのやむを得ない提案であり、数カ月延ばしたところで結論が変わるものではないと思うし、補助金が新たにつくということも恐らくないと思う。この再編は受け入れざるを得ない状況にあると思う。これを踏まえて、地域の足をどう確保するのか、また、市全体の公共交通をどう考えていくのかということにシフトした方が未来を拓いていくうえでは重要であると思う。会議の開催回数はそれほど多くなく時間は限られていると思う。

→通常であれば、来年1月と3月のあと2回を想定している。

◎そういう中で、奈良交通路線バスの再編についての結論を先延ばししても状況に変化はないと思う。次を考えることに時間を割くべきだと思うので議決を取りたい。奈良交通から提案のあった路線バス再編については、お認めいただける方は挙手をお願いしたい。

(挙手多数)

◎賛成多数ということでご承認をいただいた。

○議長から、行政に対して対応がこんな遅くてはダメだということは言ってもらいたい。

○対応については、これでも早い方だと思う。

○いろいろな地域で協議会に出席して、新聞等で報道されている通り、運転手不足で減便、路線廃止が多くなっているが、運行が維持できないという一方的な申し出に対して、協議する暇もないというところが大半である。そういう意味では、この段階で奈良交通から提案があるのは、決して遅いわけではなく、むしろ丁寧な対応という印象である。今のままで維持できないということで先ほど提案が承認されたが、今後どうしていくか、地域として何らかの公共交通を必要とするのか、またはマイカー中心でよいのか、いろいろな方向があるが、地域が汗をかかなければ行政は支援しにくいというのが現状だと思う。

木津川市は市域が広くいろいろな地域がある中で、市全体を薄く広く支援するというのは行政としてはやりやすいが、一部の地域を支援するのは、それなりの理由がなければ難しい。地域を絞ってそれなりの支援をするには、例えば、地域が利用促進に努めているとか、地域が活発に議論しているといったものがないとなかなか支援しづらい。行政は地域を支援したいと思っているので、地域も行政が支援しやすいような動きをしていただけると活路が見いだせるのではないかと思う。

◎今後、未来志向で考えていきたい、地域の方々も積極的に意見を出していただきたい。

②木津川市地域公共交通計画の策定について

【配布資料】資料4

【主な意見・質疑等】

○交通事業者へのヒアリングの際にも、駅を中心としたまちづくりを期待するということを申し上げたが、鉄道も利用者がいなければ持続しない。鉄道を幹、バスを枝とするようなネットワークをすることが望ましい。ぜひ前向きに、建設的な意見交換ができればと思う。当社としては、先月末に決算を公表し、3期連続で増収増益となり、鉄道については100億円の上方修正だったが、内訳を見ると、新幹線が140億円増である一方、近畿エリアは-70億円の下方修正となっている。定期利用がコロナ禍前の89.9%で、まだ利用が戻ってきていない状況である。当社して増収とはなったが、まだまだ厳しい状況が続いている。それを踏まえて計画策定を進めていただきたい。

◎アンケート調査からも、マイカー利用が多く、公共交通を維持していくためには積極的な利用が今後求められる。課題認識についてはP.24にまとめられており、いずれもその通りかと思う。また、P.25に基本方針案、施策の方向性についても示されているがよろしいか。特にご意見、ご質問がなければ、こちらも協議事項となっているので、この方向で計画策定を進めるということで、認めていただける場合は挙手願いたい。

(挙手多数)

◎2つ目の議題についてご承認いただいた。議事は以上のため、司会を事務局に戻したい。

(3) その他

①次回協議会について

1月を目途に事務局で調整し、改めて通知させていただく。

②その他

○本日お手元にオレンジ色のチラシをお配りしている。先ほど吉田委員より在来線利用者についてコメントがあったが、学研都市線・片町線の利用促進に向けた取組をしており、今年度も行っているのご活用いただきたい。また、市内のイベントとして、木津川アートのご案内のチラシを配布させていただいているのでこちらもご覧いただきたい。

3. 閉 会

以上。